

令和6年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名： 商工観光課 シート No.： 125 作成日： 2025.5/12

① 総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後期基本計画	施策の大綱	VII行財政運営の効率化	事務事業の背景・目的 常総市では、人口減少に伴う労働者不足や地域産業の担い手不足、高齢化に伴う交通弱者の増加、生産年齢人口の減少に伴う地域経済の縮小など多くの社会課題が顕在化しています。 この課題に対応するため、近年急速に進歩・発展する AI などの先端技術を活用した若年層が定着しやすいまちづくりに取り組みます。	事務事業の目標 AI などの先端技術を活用する企業を誘致し雇用の機会を創出することで、若年層を中心とした生産年齢人口の還流を目指します。 合わせて、市内の小中高校生に対し AI 教育・キャリア教育を進め、将来の AI 人材を育成することにより、本取組によって集積していく企業等の雇用需要を満たし、若者が戻ってこられる持続可能なまちを実現します。 上述の取組は、市と㈱本田技術研究所を含む民間企業で構成される「常総 AI まちづくりコンソーシアム」（以下、コンソーシアム）を主体に取り組みます。 また、㈱本田技術研究所との協定に基づく取組として、市内での自動走行技術実証実験（以下、実証実験）に協力し、移動と暮らしの進化を目指します。
	施策の目標	1 市民満足度の高い行財政運営を進める		
	施策	3 連携事業		
	施策内容	AI まちづくりの推進		
	その他、根拠法令及び分野別計画等	じょうそう未来創生プラン後期基本計画（R5～9年度）		
事務事業名		AI まちづくり推進事業		

② アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）③ インプット（投入）

アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R6予算額	R6決算額
活動名・事業名 （対象年）	R6活動・事業内容	指標（単位）	R6目標値	R7目標値		
			R6実績値	R8目標値		
AI まちづくり 関連会議の開催 （R6・7・8）	コンソーシアムの運営会議や㈱本田技術研究所との会議を適宜開催します。また、AI×農業プロジェクト立上げに向けた基礎調査を行います。	会議回数（回）	12	12	2,840 千円	2,840 千円
中1オリエンテーションキャンプでのAIワークショップの開催 （R6・7・8）	市内中学校1年生全員を対象に、AI等の先端技術に興味・関心を喚起するためのワークショップを開催します。	実施中学校数（校）	4	4	0 千円	0 千円
ロボットプログラミング講座の開催 （R6・7・8）	市内小中学生を対象に、AIやプログラミングに触れる場を提供するため、ロボットプログラミング講座を開催します。	実施回数（回）	4	8	8,000 千円	7,938 千円
上記以外の「AI×教育」プログラムの開催 （R6・7・8）	市内小中学生を対象に、AI等の先端技術に興味・関心を喚起するため、R6年度はこどもアイデアコンテストを開催します。	参加者数（人）	30	30	100 千円	100 千円
あすなろの里でのAIモビリティ体験乗車 （R6・7・8）	市内外の来園者に対し、AIまちづくりの取組PRやAIなどの先端技術に触れる場を提供することを目的に、AIモビリティ乗車体験を開催します。	参加者数（人）	500	500	3,440 千円	2,208 千円
あすなろの里AIモビリティ走路環境整備 （R6）	AIモビリティ体験乗車や㈱本田技術研究所との協定に基づく技術実証実験を推進するための環境整備工事を行います。	—	—	—	5,005 千円	5,005 千円
市内イベントでのAIまちづくりPR活動 （R6・7・8）	市内主要イベントにおいて、AIまちづくりの取組を周知するためのブース出展を行います。	ブース出展回数（回）	5	5	千円	千円
情報発信 （R6・7・8）	SNSや広報誌において、AIまちづくり関連情報を発信します。	発信回数（回）	24	24	千円	千円
					千円	千円
					千円	千円

④ アウトカム（成果）

指標名	目標値	R6実績値
本事業に関連する新規雇用者数	累計32人	累計23人
コンソーシアムプロジェクト数	累計4件	累計1件

⑤ 点検・改善

業務の振り返り	改善の余地			
・コンソーシアムの活動を本格化させるためにコンソーシアムの運営支援業務委託を行い、「AI×農業」プロジェクトの立ち上げに向けた調査・情報整理を実施しました。 ・「AI×教育」プロジェクトの初年度の取組として、ロボットプログラミング講座及びこどもアイデアコンテストを実施しましたが、参加者を増やすための取組が必要であると考えます。 ・あすなろの里でのAIモビリティ体験乗車事業では、よりコンテンツを充実させるため、車両転回エリアの造成工事を実施しました。 ・実証実験の分野では、テスト環境拡張・拡大に向け、関係機関との調整を行いました。	☐ コスト	☒ 活動	☐ 成果	☐ その他
	今後の方向性			
	令和7年度からは、「AI×教育」プロジェクトを拡充させるとともに、「AI×農業」プロジェクトの活動をスタートさせ、広く市民や地元企業にコンソーシアムへの参画を促していきたいと考えます。 また、実証実験の分野では、公道での技術実証実験実施に向け、関係機関との協議を進めていきます。			